

大学院トピックス

事業創造大学院大学 近況報告

「事業企画書」提出

本学は、「みずから起業を企てる人材」と「企業内ベンチャー等として組織内で新事業を起業する人材」を育成する、事業創造教育を行うことを目的としています。そのため、基礎的・発展的科目に加え事業計画書(ビジネスプラン)の作成を課題とする「演習」をカリキュラムに組み入れ、修了時まで実際に起業可能なレベルの事業計画書の作成を目指します。

この「演習」の一環として、1年次に「事業企画書」を作成いたします。今年度春に入学した1期生は夏に「演習」の説明会を受け、各自の修了後に実現したいテーマを選定し「事業テーマ調査票」を提出しました。「事業テーマ調査票」を基に教員との個別面談により方向性や実現性をチェックし、適切なアドバイスを受けました。

後期からは必修科目「ビジネスプラン作成法1」で「事業計画書(ビジネスプラン)」作成の一連の流れを学びながら、テーマごとの演習グループに分かれ演習指導教員との面談を繰り返し「事業企画書」を作成し、1月末に提出しました。

次年度には、各演習指導教員とともに、この「事業企画書」を基に《仮説の構築》《仮説の検証》《仮説の再構築》《再構築した仮説の検証》を繰り返し、いよいよ1期生の「事業計画書(ビジネスプラン)」が出来上がります。



客員教授特別講義情報

【2006年 客員教授特別講義実績】

6月10日	玉生 弘昌氏 株式会社プラネット 代表取締役社長	9月 2日	近藤太香巳氏 株式会社ネクシース 代表取締役社長	11月11日	新浪 剛史氏 株式会社ローソン 代表取締役社長兼CEO
6月17日	西川 俊男氏 ユニー株式会社 特別顧問	9月 9日	木村 育生氏 株式会社インボイス 代表取締役社長	11月25日	奥田 碩 氏 トヨタ自動車株式会社 取締役相談役
8月26日	田端 一宏氏 株式会社プライム 代表取締役社長	9月30日	澤田 秀雄氏 株式会社エイチ・アイ・エス 取締役会長	12月 9日	石黒 義久氏 株式会社ライフ技術研究所 代表取締役
9月 2日	大武 浩幸氏 株式会社ユニカフェ 代表取締役社長	10月14日	平松 宏之氏 株式会社ひらまつ 代表取締役社長CEO		

☆今年も続々と客員教授による特別講義を開講する予定です。日程が確定しましたら随時ホームページ等でご案内いたします。

学校説明会情報

学校説明会

カリキュラム内容や施設、入学試験について直接、教員や職員から聞くチャンスです。また専任教員紹介、在学生メッセージなども予定しております。本学について詳しく知りたいという方はお気軽にご参加ください。

平成 19年2月24日(土)

13:30~16:00 (13:00受付開始)

※時間につきましては、変更になる場合があります。変更の場合には個別にご連絡するとともに、ホームページにてお知らせいたします。

※都合により学校説明会に参加できない方へ
個別での学校説明会やこちらからお伺いし学校説明をさせていただいております。個別に対応させていただきますので、ご希望される方は本学へお問い合わせください。

参加申込み方法
説明会に参加ご希望の方は必ず、住所、氏名、電話番号を明記の上、ホームページ、e-mail、FAXにてお申し込みください。

入学試験情報

入学定員:80名

入学者選抜方法:

- ① 社会人(企業・官庁等で2年以上の実務経験を有する者)
 - 書類審査 ○小論文 ○口頭試験
- ② 進学者(留学生含む)
 - 書類審査 ○学力試験 ○面接試験

入学選抜試験日程:

試験日	出願期間
【第四次試験】 平成19年2月17日(土)	平成19年 1月29日(月)~ 平成19年 2月 9日(金)
【第五次試験】 平成19年3月10日(土)	平成19年 2月19日(月)~ 平成19年 3月 2日(金)

募集概要

※詳しくは募集要項をご覧ください。募集要項をご希望の方は必ず、住所、氏名、電話番号、メールアドレスを明記の上、ホームページ、e-mail、FAXにて下記までお申し込みください。



↓ 本学への資料請求やお問い合わせはこちらへお願いします。
※学校説明会・特別講義への参加・学校案内パンフレット・募集要項をご希望の方は必ず、住所、氏名、電話番号、メールアドレスを明記の上、ホームページ、e-mail、FAXにてお申し込みください。

URL ホームページから <http://www.jigyo.ac.jp/>

e-mailから info@jigyo.ac.jp

FAXから 025-255-1251

本学に関するお問い合わせ 0120-250-171

JIGYO 事業創造大学院大学

〒950-0916 新潟県新潟市米山3丁目1番46号
TEL:025-255-1250 FAX:025-255-1251

2007
第2号

事業創造大学院大学通信
Press 通巻 No.6

Published by Graduate Institute for Entrepreneurial Studies

2007年2月1日発行
編集・発行
事業創造大学院大学
広報委員会・事務局



contents

表紙 特集:誌上講義 p.2 教員紹介 p.3 学生ボイス
p.4 インフォメーション:大学院トピックス、イベント情報等

誌上講義

special issue

汝、日の落ちる前に、
理論と実践の狭間から翔け

中澤 信雄

NAKAZAWA, Nobuo

学校法人新潟総合学園
事業創造大学院大学 学長

Profile

早稲田大学政治経済学部卒
野村證券株式会社において国内外の要職を歴任～野村證券株式会社代表取締役専務～国際証券株式会社代表取締役社長～三菱証券株式会社創立初代社長～国際投資顧問株式会社代表取締役会長～本大学院設立準備の中心的な役割を担い現在に至る



早いもので開学初年度生(18年度生)は四月に二学年に進級する。

いよいよ本学の中核的なカリキュラムとなる演習の「事業計画書」の作成にとりかかることになる。事業計画書は、起業を目指す者にとって「海図」になるものであるから、全知全能を捧げて作成にあたることとなる。

しかし、どんなに立派な事業計画書でも、いざ実際に会社を作り実践するとすると、思わぬ問題に遭遇するものである。

アメリカの統計によると、会社を創業したものの一年で潰れてしまうのが50%、三年後にはその10%しか生き残らないという。さらにその後成長を続けていく会社はわずか1.2%だという。厳しい話だが、一年で消えてしまう会社はもともと世の中が必要としない会社だという。

日本には現在約470万の株式会社があるといわれているが、こうした会社の前には膨大な数の屍があるということになる。

日本も昨年の会社法の改正で、最低資本金制度がなくなり、取締役も一人で可能となった。つまり、個人が自由に好きなように株式会社を作って、その才能、アイデアを規制に縛られないで活かせるという、チャンスに満ちた良き時代になったのである。しかも、新興株式市場も創設され、三年から五年でIPO(公開)ができるようになった。国も世の中も、新しい起業家の登場を期待している。

日本経済は、失われた十年の時代をようやく抜け出そうとしている。その暗く長いトンネルから出て来たとき、多くの日本人は戸惑いを感じたはずだ。これまで通用していた考え方や常識とは全く違う世界が広がっていたからだ。かつて成功していた仕組みや方法はもはや通用せず、ついにはマーケットから放逐されてしまう。そういうシビアな時代に突入したのだ。しかし、起業家にとってみればこういう時代こそまさにチャンスである。

実はこのような状態はわが国にとって初めてのことでない。日本の歴史において過去何度かあったことである。1945年の戦後経済がそうであったし、さらに遡れば江戸幕府が出来上がるまでの戦国時代もそうであった。織田信長が天下を統治しようとしたのは、37歳前後のときであったという。彼こそ律令制度の崩壊を誰よりも早く察知して、新しい時代に向けて「起業」を目指した一人であるといえよう。もちろん世の中は織田信長の理論通りにすべてが動いたわけではないが、当時来日した宣教師は、世界にも稀な希代の起業家として彼を絶賛している。神仏をも恐れぬその行動力、実践力は現代の起業家にとっても必要な素質であろう。常識人が不可能と考えることをやり遂げようとするのが、「起業家の本質」である。

しかし、その企みはただの蛮勇であってはならないし、無謀であつてもならない。成功するためには、いつの時代も変わらぬ普遍的な理論があるのである。

事業計画書というものに完璧なものはないし、そもそも完成というものもない。何度も何度も書いて破り捨てる。実践しては原点に戻り練り直し、そしてさらに事業を進めていくことになる。

理論と実践の狭間、そこに起業家は自分の棲家を持ち続けることになる。成功を目指して大空に翔いては疲れ果てて舞い戻る。そしてそこには起業の原点となる事業計画書があるのだ。

十数年前に私はあのアルタミラ洞窟を訪問した。その壁画には生き生きとした野牛の群れが描かれていた。今にも動き出そうとするその壁画が、単に鑑賞のためのものだったとは思えない。紀元前一万年も前の世界で人々は、この絵を前にして野牛の性質を学び、狩猟の作戦を練ったのではないだろうか。私は想像した。自分と家族、そして一族を養うために、この洞窟は彼らにとつて住居であり教場であったのだろうと。

・QUESTION・

- 1 担当されている科目の概要説明
- 2 講義の様子・受講している学生の印象
- 3 新潟の印象
- 4 著書・推奨本の紹介

一方通行の講義ではなく、社会人学生の疑問、意見、反応を随時講義に取り入れ、必要に応じてテーマを新たに設定する相互交流的な講義をしたい



小澤 健二

OZAWA, Kenji
教授
担当科目:地域農業政策論
平成19年度就任

東京大学経済学部～東京大学経済学部経済学研究科博士課程単位取得満期退学
農林事務官(現農林水産事務官)～東京農工大・宇都宮大講師を経て新潟大学経済学部ならびに新潟大学大学院教授
アメリカ経済論、国際農業経済論を担当。
経済学博士

1 来年度、担当する講義の科目は「地域農政学」です。「地域農政学」と言っても、具体的な内容をイメージできる人は少ないでしょう。現在、日本の農業政策は抜本的な改革の渦中にありますが、この農政改革は新潟県の地域農業、ひいては地域経済にも様々な影響を与えています。講義では、農村地域を対象とする農業政策の現状とその問題を、現在の農政改革とも関連させて検討します。

もともと、講義では地域に関する農業政策に限定せず、食糧・農業に関わる諸問題を広範に取り上げます。一例をあげると、アメリカの製造業のなかで食品産業はもっとも生産性の高い部門ですが、それが日本の食料消費、さらに地域農業にいかなる影響を与えているか、日本の食品産業の動向とも関連させて考えたいと思います。

要するに、グローバルな視点からローカルの領域に立ち入り、日本農業および地域農業(地域経済)が世界な農業、食糧をめぐる動きといかに深く関わっているか、これとの関連で地域を対象とする農業政策の動向と課題を明らかにすることが講義の主たる内容です。このなかで、新潟県内の農村社会、地域の様々な問題を考えたいと希望しています。

2 食糧、農業に関わる問題は、社会のあり方と深く関わっています。これを前提に、現在の食糧・農業に関する諸問題を長期的歴史的背景をふまえて世界経済的関連で考えねばならぬこと、また社会・地域的視点が重要性を増している日本の農業政策の現実とその諸問題を具体的に理解してほしいと考えます。

3 食糧・農業・農村などの諸問題を考える際には、生活経験に根ざした発想が必要です。当大学院大学の学生の大部分は社会人でしょうから、講義で取り上げる問題に自分の意見、疑問を積極的に出せるはずで。一方通行の講義ではなく、社会人学生の疑問、意見、反応を随時講義に取り入れ、必要に応じてテーマを新たに設定する相互交流的な講義をしたい、と思っています。

4 <著書>
「アメリカ農業の形成と農民運動」(日本経済評論社)
「カナダの農業と農業政策-歴史と現状-」(輸入食糧協議会)
「コメの国際市場」(新潟日報社)
<推奨本>
馬場宏二「新資本主義論」(名古屋大学出版会)
佐伯尚美「米政策改革」I、II (農林統計協会)

事業の創造と事業の維持・発展は車の両輪
本講義が効果的に活用されることを願う

「生産管理」「オペレーションズリサーチ」「生産流通システム」を担当します。

1 「生産管理」では、顧客が要求する品質の商品を最短のリードタイムと最小のコストで生産する方法を学びます。具体的には、生産スケジューリング、品質管理、在庫管理システムなどについて学びますが、それらの適用の場を製造業に限定する必要はありません。生産管理における理論と技術は広い普遍性を持っていますので、その適用の場は流通業、サービス業、金融業などから病院、官公庁などまで幅広く存在します。

2 経営上の意思決定を適切かつタイムリーに行うには、数理的な技法の活用がいまや不可欠になっています。「オペレーションズリサーチ」では、このような状況を踏まえて、企業や組織体における問題を数理的にモデル化する方法と、モデル化した問題のソリューションを効率的に求めるための理論と技術を学びます。また、実際問題に対するオペレーションズリサーチの適

用例を示して、理論と実践のつながりを補強します。

3 「生産流通システム」は、資材の調達から生産を経て販売に至る一連のモノの流れを総合的に計画し管理するための科目です。したがって、この科目ではサプライヤーから最終顧客に至るモノの流れの統合化を目指すサプライチェーンマネジメントや、総合的な視点から物流の効率化を図るロジスティクスを中心に学びます。

4 事業の創造と事業の維持・発展は車の両輪です。両輪がバランスよく回らないと、車は走り続けることができません。「生産管理」では、新しいシステムを創りだすための思考法である、ワークデザインについても触れたいと思っています。また「オペレーションズリサーチ」では、立ち上げたシステムを最適に運用し発展させるための方法を紹介します。これらが、事業の創造と事業の維持・発展に効果的に活用されることを願っています。



羽田 隆男

HADA, Takao
教授
担当科目:生産管理、オペレーションズリサーチ、生産流通システム
平成19年度就任

武蔵工業大学工学部～早稲田大学大学院理工学研究科博士課程単位取得満期退学(株)ヤスイ産業～東海大学電子情報学部ならびに東海大学大学院工学研究科教授
生産システム工学特論、経営工学研究ゼミナール他を担当。
日本経営システム学会理事、工学博士

「本物」の2年間



皆川 和仁

MINAGAWA, Kazuhito
株式会社 第一印刷所

事業創造大学院大学への入学に関して、私自身、本当に幸運でした。正直まさかこのタイミングで事業創造に関する研究をさせていただけるとは夢にも思わずにいました。

昨年初めに、本学開学に関する情報が耳に入り、その時直感的に入学へのエネルギーがこみ上げたのを今でも覚えています。4年制大学卒業後に企業へ就職をし、その中で事業の一翼に取り組んでまいりましたが、常にもう一つ先への欲求があり、事業全般に関する事や経営に関する知識について、幅広く学んでいきたい気持ちが強くありました。そのような背景もあり、本学に入学できた時には久しぶりの学生になれるということなんとも言えぬ感動がありました。

本学の魅力は、なんといっても新潟に居ながらにして「MBA」を取得する事が可能な研究ができる事、すばらしい先生方とクラスメートとの交流を通して、さまざまな経験が身近に

体験できることかと思えます。昨年の9ヶ月間で本当に刺激的な講義や研究をさせて頂いており、通常業務との繁忙以上に、研究へのエネルギーが湧いてくるような感じがします。また、毎週のように行われる客員教授の先生をお招きしての貴重なご講演は、本当にすばらしい内容であり、一言も漏らさずに聴きたい経験話の連続です。

地域経済を活性化させるための一翼を担う為には、自己の資質を高め企業の活性化や個人事業の創出による雇用の拡大などが不可欠です。その中に生きる一人人として、本学の研究を通していかに地域経済に貢献できるかは、これからの大きなテーマの一つになります。そのための自己研鑽と明るい未来への創造を実現する為に、是非この2年間で形だけの時間ではなく、「本物」の時間として過ごす事が大事であると考えています。

『受身』からのスタート、目標は『限りない未来の創造』の為に・・・

私が事業創造大学院の話を会社から貰い最初に出た言葉は正直な所、「絶対無理!!」でした。自分の抱えている業務内容、国内外の出張の回数等の現実との比較から出た言葉でした。しかしながら心の奥では「時間があれば行ってみたい」で、興味はありました。今までは限られた分野での自分の狭い考え方や価値観に不安があったのも事実です。しかし情けないかな、目の前の現実でしかその時は判断出来ませんでした。こんな自分を後押ししてくれたのが家族であり今一緒に通っている会社の同僚でありました。開き直り、「何とかなるさ」と楽観的に考え4月から通い始め一年が終わろうとしています。

クラスの皆は自分とは違い非常に積極的に意識の高い人が多いと感じました。講義にも積極的に参画している感が出ていて、全くこの分野の知識の無い自分と比べる日々が続きました。しかし講義を受けていく中でバラバラの知識の点が線になり面となり形となってきていると実感

出来る様になってきました。素晴らしい先生方、客員教授の方の講義でも単なる知識を頂くだけでなく先生方の今までの経験から出ている重い言葉の一語一句にも非常に学ぶべきヒントがあり、又その「場」を共有する事で得られる、言葉にはまだ表せない暗黙知を得ていると感じています。それを自分なりに考え整理し、一緒に通っている同僚とも議論する事で更に醸成された確かなモノへと進化しつつあると実感できます。この様に今まで考えなかった事を考える機会を得ただけでも有意義な事です。今はまだ急速に頭に入って来ている知識や考え方、暗黙知がぐちゃぐちゃで完全に整理出来ていませんが、今までの一方向からの見方ではなく確実に多面的に物事を見て考える事が出来る様になってきている。卒業時には単なる知識武装をして卒業するのでは無く、自分の手で未来を切り拓ける新たな考え方・価値観を自分なりの形に仕上げ「限りない未来」を創造できる人材として出発したい。



近藤 類

KONDO, Rui
株式会社 遠藤製作所